

## ■ 名称

### 日枝神社（ひえじんじゃ）

慶応4年（明治元年）6月11日以来、日枝神社の称号を用いることとなったが、古くから「日吉山王社」「日吉山王大権現社」「江戸山王大権現」「麹町山王」ひろく「山王社」などと称され、氏子にとっては「お山」であり、一般には常に「山王さん」の名で親炙されてきた。

## ■ 所在

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-10-5

## ■ 交通

丸ノ内線・銀座線で赤坂見附駅  
銀座線・南北線で溜池山王駅  
千代田線で国会議事堂前駅

## ■ 奉仕者

+ 旧社家・別当・社僧について

## ■ 社格

当神社は江戸城の鎮守として徳川家の崇敬は特に篤く、将軍世嗣、子女及び諸大名などの社参は途絶えることなく、毎年正月・六月には必ず使い遣して幣を奉り、国家事ある時には必ず祈祷を修し、崇敬他に異なるものがあった。

東京奠都の後明治元年11月8日准勅祭社に、同2年7月2日祈年奉幣の列に入り、同5年5月8日府社に定められたが、皇城の鎮護たる故を以て、同15年1月11日官幣中社に列せられ、大正天皇御即位にあたり、氏子区域内に御降誕せられたる故を以て、大正天皇御即位の当日、更に昇格して官幣大社に列せられ、終戦とともに社格を廃せられた。現在は別表神社。

## ■ 御祭神

### 主祭神

大山咋神（おおやまくひのかみ）

+ 大山咋神

### 相殿

国常立神（くにのとこたちのかみ）

伊弉冉神（いざなみのかみ）

足仲彦尊（たらしなかつひこのみこと）

## ■ 摂末社

### 摂社

日枝神社（御旅所）：寛永年間（1624～1643）山王御旅所に定められ、山王祭（神幸祭）では三基の神輿が出て摂社に至り、一時駐輦の上、神事を営み帰輦する。（東京都中央区日本橋茅場町1-6-16）

## ■ 祭事

+ 大祭

+ 中祭

+ 小祭

+ 山王御祓・鎮火祭

## ■ 由緒と歴史

当社は武蔵野開拓の祖神・江戸の郷の守護神として江戸氏が山王宮を祀り、さらに文明10年（1478）太田道灌公が江戸の地を相して築城するにあたり、鎮護の神として川越山王社を勧請し、神威赫赫として江戸の町の繁栄を築いた。

やがて天正18年（1590）、徳川家康公が江戸に移封され、江戸城を居城とするに至って「城内鎮守の社」「徳川歴朝の産神」として、また江戸市民からは「江戸郷の総氏神」「江戸の産神」として崇敬された。二代秀忠の時の江戸城大改造の際、城内紅葉山より新たに社地を江戸城外に定め、社殿を新築して遷祀された。世に伝える元山王と称する地は今の隼町国立劇場附近である。この時から別当神主を定め神社の規模は大いに備わり、広く一般衆庶も参拝し得る道を開いたが、明暦3年（1657）の俗に言う振袖火事に社殿炎上の災に遇ったが、時の将軍家綱は直ちに赤坂の溜池に臨む松平忠房の邸地を官収して社地に充て、結構善美を尽くした権現造の社殿を造営・遷祀され、天下泰平、万民和楽の都を守護する祈願所として崇敬された。

明治元年東京奠都と共に勅使奉幣が行われ、御西下御東幸に際しては御途中安全の御祈禱を修せしめられ、明治2年7月天下水患にあたり勅使祈晴の御事があり、宮妃御懐妊の際は御安産の御祈を修せられ、皇室典範帝国憲法の制定を始めとして開戦及び平和克復などの重大事に際しては、常に勅使参向御奉告が行われ、畏くも大正天皇儲宮にまします時、新しく御参拝があり、明治天皇は御愛蔵の御太刀一振（長光）を進献あそばされた。

万治2年御造営の社殿は、江戸初期の権現造の代表的建物として国宝に指定されていたが、昭和20年5日の戦禍に遭い、末社山王稲荷神社を残し悉く烏有に帰したが、氏子崇敬者の赤誠奉仕により「昭和御造営」の画期的な大業が企画され、昭和33年6月本殿遷座祭斎行、引続き神門・廻廊・参集殿などが逐次完成、更に末社改築、摂社の大修築、神庫校倉の改造などを相次いで竣工し、全都を挙げて之を慶賀し、昭和42年6月奉祝祭が先ず斎行され、この間、昭和33年6月現社地御鎮座三百年祭を斎行し、ここに昭和24年復興後援会発祥以来10年に亘る歳月を以て、山王台上に再び大社の偉容を拜するに至った。

昭和52年7月に江戸城内御鎮座五百年奉賛会が結成され、昭和53年6月五百年を祝する式年大祭を厳修し、昔をしのぶ天下祭にふさわしい山王神幸祭の復元、尚記念事業として「日枝神社史」の刊行、宝物殿の建築、本殿以下社殿の修繕、境内整備などが実施された。

## ■ 文化財

刀剣を主要なものとし、現在保存されている刀剣は27口で、内国宝1口、重要文化財14口を数えている。これらは歴代の将軍及びその世子等が初宮詣、或いは自身が將軍宣下奉告参拝、或いは特殊の崇敬の下に社参されたときに、神前に奉納されたものであることを特色とする。

また、社蔵文書として重要な徳川歴代将軍の朱印状が、6代將軍家宣、7代家継及び15代慶喜のそれを除いて、12通現存し社蔵されている。他に3代家光の手習い草子を貼って作ったといわれる「獅子頭」や山王まつりの山車人形、記録文書類などが所蔵されている。

- 太刀 銘「則宗」（国宝）
- 太刀 銘「国綱」（重文）
- 太刀 銘「師景」
- 千代田御表 山王祭礼上覧

## ■ 社殿天井絵について

日枝神社復興50年を記念して、平成20年6月に国立東京藝術大学宮田亮平学長監修の下、江戸山王権現社草創期の鎌倉時代古江戸・武蔵野の原野を彩った百花草木に鳥虫を加えた123枚の板絵が拝殿天井に掲げられた。彩色には、緑青・藤黄・朱・群青・臙脂・黄土を始め天然岩絵具を使用している。

## ■ 境内施設

### 山王鳥居

御社殿正面・男坂口、外堀通りに面した赤坂口・山王橋口に「山王鳥居」がある。「山王鳥居」は鳥居の笠木の部分の上端に合掌のように破風を付したもので、合掌鳥居ともいわれ、「山王鳥居」は、大山咋神を祀ったお社に用いられる特徴的な鳥居であり、日枝神社や日吉大社などに見ることができる。

### 社号標

揮毫は宮内庁侍従長故入江相政による。

### 表参道（山王男坂）

日枝神社の表参道、左側のゆるやかな“女坂”に対して“男坂”と名付けられている。石段数52、山王台地、またの名を星が岡ともいう景勝地であった。

### 参道（山王女坂）

正面の石段に対し“山王女坂”という、別名「御成坂（おなりざか）」、『東京名称図鑑』には“左緩かに通ずる石段を女坂と呼ぶは非なり。昔時將軍御成の節、峻坂を避け、此坂のみ御通行遊ばされしにより御成坂と申侍るを女坂と聞誤りしにあらぬか”と書かれている。

### 宝物殿

日枝神社の宝物を納める宝物殿は、昭和53年に行われた江戸城内御鎮座500年大祭の記念事業として、その翌年に造営された。国宝・重要文化財を含む刀剣31口の他、徳川將軍家ゆかりの宝物が多数所蔵されている。

・開館時間 午前10時～午後4時

・定休日 火曜日・金曜日（神社行事により休館日が変更になる場合あり。）

・入館料 無料

### 神門

神号額「日枝神社」又「皇城之鎮」の額は神宮祭主 故北白川房子の揮毫による。また随神像と神猿像が奉安されている。

- 山王のお猿さん

### 御文庫

日枝神社関係書物及び神幸祭用具を収めている。

### 日枝あかさか

神前式による結納式、結婚式及び披露宴を行っている。

### 山王茶寮

休憩所及び軽食場所。

・営業時間 午前11時～午後6時

・定休日 年中無休

・総席数 200席（個室あり）

[Amazon.co.jp ウィジェット](#)

以上、日枝神社「参拝のしおり」と[ホームページ](#)より。

---